生産組合が省力栽培飼料イネの
生育状況を確認しました

下関農林事務所畜産部
平成22年8月13日

下関市内で飼料イネを栽培している吉田農業生産組合、松屋農業生産組合、農業生産法人フェルメ高熊の３地区では、コーティング処理した専用種あるいは一般種の種子を動力散粒器で直接ほ場へ播種する省力栽培方式に取り組んでいます。

８月11日、農林総合技術センター（農業技術部、畜産技術部）、農林事務所、下関市、ＪＡ下関の関係者がほ場で育成されている飼料イネの育成状況を確認しました。

今年は、は種時に天候が不順であったことから、地区により生育や除草効果に差が出ていました。

巡回後の協議で、問題点を整理をし、次年度に向けた課題として取り組むことにしています。

飼料イネの穂

生育調査風景